■平成２９年度　経済環境委員会　所管事務調査報告

調査テーマ：林業の成長産業化の推進について

１．本市の森林の状況

本市の森林面積は、73,387ha で市の総面積の 84.5%にあたり、森林資源に恵まれている。森林面積のうち、約 13%の 9,382ha が国有林、約 87%の 64,005ha が民有林となっている。現在、人工林の約７割が収穫期を迎える中、本市を含む周辺市町において、大型製材所や木質バイオマス発電施設の稼働により、木材の需要が拡大し、伐採面積も増加しているところである。

２．本市の取り組み状況

（１）森林境界明確化事業

森林所有者の高齢化等により、森林の境界が不明瞭な箇所が問題となっているため、森林所有者立ち会いのもと、森林境界を測量し、森林資源の有効利用へと繋げていく。

（２）循環型林業促進事業

再造林の推進のため、森林所有者・森林組合等の事業者・延岡市の三者間において、循環型林業促進協定を結び、事業費から国・県補助金を除いた額の１／４（上限 115 千円／ha）を補助する。

（３）林業成長産業化地域創出モデル事業

森林資源の利活用で、川上から川下までの多くの雇用や経済効果を創出する、林業の成長産業化に繋げるため、「担い手の確保」、「的確な再造林の推進」、「素材生産量の増大」を目標に「伐って、使って、すぐ植える」持続的な資源循環型林業を推進する。

① 森林情報バンク構築事業
森林所有者と素材生産者のマッチング支援を行うシステムの構築

② 地域密着型林業創出事業
モデル地区を選定し、集落林業による森林管理を進める。

③ 木材流通セールス支援事業
知育玩具や木材製品の開発を行い、木材の付加価値を高める。

（４）林地台帳整備事業

森林所有者や境界の不明確な森林が課題となっていることから、これらを整理し、情報の一元化を図ることで森林資源の有効活用に資する林地台帳を整備する。

（５）木材生産円滑化資金支援事業

市内の森林にある立木を購入し、Ｊ－クレジット購入、ＣＯ２削減に取り組む生産者に対し、当該取引等に係る金融機関等から受けた融資の一部を支援する。

３．他自治体の取り組み状況

≪真庭市（岡山県）≫

（１）バイオマスタウンについて

バイオマスタウン構想

平成 18 年４月に国からバイオマスタウンに認定され、事業者、市民、行政が一体となり、バイオマス産業の活性化や循環型社会の形成に取り組んでいる。

① 具体的な取り組み

○ バイオマス普及啓発活動

・ 子どもを対象とした丸太切り体験、エコキャンドル作り等

・ 大人を対象とした森林自然観察会、バイオマス市民講座等

・ 地域外を対象としたバイオマスツアー真庭の実施等

○ 真庭バイオマス集積基地

平成 21 年４月に完成し、森林から排出された林地残材や製材の際に発生する木くず、樹皮等が燃料や資源に加工され、未利用木材や廃棄物に価値が生まれている。

○ 真庭バイオマス発電事業

平成 25 年２月に「真庭バイオマス発電株式会社」を官民９団体で設立し、平成 27 年４月に稼働開始

【真庭市のバイオマス資源と利用状況】

バイオマス	発生量（ｔ／年）	利用率（%）		目標値
廃棄物系バイオマス	278,748	92.6	⇒	96.5%
家畜排泄物	122,160	81.0		
食品廃棄物	6,078	44.0		
木質系廃材	132,838	96.2		
紙くず・古紙	4,778	27.1		
浄化槽等汚泥	11,967	99.9		
下水汚泥	927	100.0		
未利用バイオマス	113,069	33.5	⇒	80.0%
稲わら	16,065	79.7		
もみ殻	2,520	71.0		
未利用木材	94,000	17.4		
剪定枝	484	17.8		

② 取り組みの効果

○ 発電所及び燃料のチップ関係でも雇用が生まれており、約 50 名の雇用を創出している。

○ バイオマス利活用による石油代替効果とＣＯ２削減効果

バイオマス利用量	約 43,000ｔ/年
エネルギー投入量	約 596,000GJ/年
石油代替量	約 16,000kl/年
ＣＯ２削減効果	約 41,000ｔ－CO2／年

○ バイオマス利活用による経済効果

バイオマス利用量 約 43,000ｔ／年 ⇒ ５億円地産（平均 12,000 円/t と想定）

石油代替量 約 16,000kl／年 ⇒ 14 億円代替 （重油を 90 円/l と想定）

③ 今後の取り組み

バイオマス産業杜市「真庭」の構築を目指して４つのプロジェクトを中心に事業推進を行う。

○ 真庭バイオマス発電事業

○ 木質バイオマスファイナリー事業

高付加価値を付けて木材を利用するため、研究開発の拠点である「真庭バイオマスラボ」にて新素材開発に向けて研究している。

○ 有機廃棄物資源化事業

バイオガスのエネルギー利用、農業利用としてバイオ液肥の無料配付等の取り組みを行う。

○ 産業観光拡大事業

「バイオマスツアー真庭」の仕組みを活かし、コースメニュー拡大、物販事業･教育旅行推進事業等の新規事業への波及等により、関連産業の活性化、雇用の拡大を図る。

（２）ＣＬＴの取り組みについて

ＣＬＴ（直交集成板）とは、Cross Laminated Timber の略称で、ひき板を並べた層を板の繊維が直角に交わるように接着させる工法で作られた木質系材料のことである。欧州で発達し、中層住宅の材料として使用されている。

① ＣＬＴ普及に向けた取り組み

○ 平成 26 年からＣＬＴセミナー、見学会等を継続的に実施

○ 平成 27 年４月 ＣＬＴ等利用促進のための補助制度を創設

② ＣＬＴ等木材活用事例

H26 年	真庭市役所前バス待合所 ※ＣＬＴ構造物として日本初
H27 年	市営住宅（ＣＬＴ構造・３階建） 木材組合共同住宅（ＣＬＴ構造・３階建）２棟
H28 年	ビジネスホテル（木造軸組、ＣＬＴ・２階建）

	落合総合センター（木造、一部ＲＣ造・２階建） 天の川こども園（木造・平屋建） 熊本市復興支援ＣＬＴ仮設建物（ＣＬＴ構造・平屋建）
H29 年	ＣＬＴモデル建築物「木テラス」（ＣＬＴ構造・平屋建） 久世保育園など保育室２室（ＣＬＴ構造・平屋建）

③　ＣＬＴの活用と展望

○　森林（木材）資源の再評価と林業・木材産業の経営

・　木材需要を増加させ、木材価格を回復

・　資源として森林の再評価

・　林業・木材産業の確立（ＣＬＴ量産工場がH28 年４月稼働）

○　ＣＬＴ活用の取り組み

・　ＣＬＴを多様な用途に活用し、裾野産業を広げる。

・　輸出による木材需要の拡大

・　東京オリンピックにおけるＣＬＴ活用促進

・　大都市部での普及促進活動や海外輸出可能性の調査

４．まとめ

本市における山林の維持管理については、延岡地区森林組合等と連携し、伐採や植林等、再造林に向けた取り組みを行っているところであるが、これらに従事する方々の高齢化が進み、後継者不足及び後継者の育成が課題となっている。このような中、昨年より、自伐型林家育成の取り組みが市民の手で行われ始めている。当局においては、林業成長産業化地域創出モデル事業にて、林家育成のための研修費や研修用資材の助成等を行っているが、担い手を育成する上で非常に有効な事業であることから、最大限の支援が重要である。

また、本委員会において、延岡地区森林組合との意見交換会を開催した際に、本市は、林業作業員に対する国庫補助金の単価が他県と比べて少ないため、作業員が他県へ流出する等、本市の森林政策に支障をきたしている状況であるとの意見が出されており、作業員を確保するためにも、他県並みの補助水準に合わせることが必要である。

民間においては、費用負担の面から、伐採後の植林が進んでいない状況も見受けられる。従って、森林組合と素材生産者が連携し、施業の集約化や伐採から再造林の一貫作業を行い、森林所有者の金銭的負担を軽減することで、再造林が推進されるため、森林所有者、森林組合、素材生産者が一体となった取り組みの推進が重要である。

また、全国的に誤伐、盗伐が発生しているが、これらについては、山林所有者の再造林に対する意欲の低下に繋がる恐れがある。このようなことが発生した場合には、速やかに実行性のある対策を講じることが必要である。

最後に、木材の需要が拡大し、伐採面積も増加している中、森林資源の循環利用と森林の持つ公益的機能を維持・発揮するための取り組みを今後も継続していくことを期待する。

調査テーマ：観光の振興について

１．本市の観光の現状

東九州自動車道の開通により、本市を訪れる観光客は増加している。この効果を最大限に生かすため、「自然体験」、「食」、「神話・歴史」を観光資源の３本柱とし、「東九州バスク化構想」、「祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク」、さらには近年注目されている「日向神話」、「西郷隆盛ゆかりの地」も加味した「第３次延岡市観光振興ビジョン」が策定された。このビジョンに沿って、自然体験による体験型観光や大河ドラマ「西郷どん」の放映開始等の話題性を持った神話・歴史におけるご当地ならではのストーリー等を活かして本市の食を絡ませた観光旅行商品の造成に努めているほか、現在、食の拠点施設である「かわまち広場」の整備に取り組んでいる。

２．本市の取り組み状況

（１）食を活かした観光誘客

①　「東九州バスク化構想」人の流れ創出事業（大分県佐伯市との連携事業）

○　観光旅行商品造成事業

九州管内の大手バス系旅行会社を対象に、両市のグルメコンテンツを組み込んだ募集型企画旅行を募り、観光客の増加を図る。

【28 年度実績】49 ツアーで 1,774 名が参加

○　東九州フードサービスエリアＰＲ事業

・　平成 28 年度において、両市の食の魅力を掲載した食の総合パンフレット「るるぶ特別編集延岡・佐伯」を２万部作成した。

・　平成 29 年度は、食の魅力ＰＲに特化したデジタル広告を制作し、博多駅及びポータルサイト「ヤフー」にて情報発信を行う。

②　食の拠点施設「延岡市かわまち広場」

食の拠点施設として、伝統漁法の鮎やなで獲れる鮎など、本市の豊かな川・海・山の幸を活かした食の提供を行うとともに、市民間の交流の促進や健康増進、河川への理解を深め、郷土の自然を愛する心を育むことを目的とする施設

○　施設の概要

かわまち交流館　木造２階建て　延床面積 593.48 ㎡

河川広場　かわまち交流広場（緑地面積　約 10,138 ㎡）

かわまち緑地広場（緑地面積　約　8,386 ㎡）

○　施設の利用

10 月から 12 月最初の日曜日までは「鮎やな食事棟」として運用し、それ以外の期間は、関係者で組織する料理人部会や生産者部会が中心となったイベント、勉強会、情報発信等の拠点としての活用を検討中

③　素材を活かしたイベントの充実

○　市民に定着した「東九州伊勢えび海道」等での更なる佐伯市との連携を図る。

○　４月～８月　　うみウララエリアでの「ひむか本サバフェア」や日向・門川・佐伯・延岡で取り組む「岩がきまつり」を実施
○　９月～11 月　「東九州伊勢えび海道」を実施
○ 10 月～12 月　「鮎やな」を実施
※29 年度はかわまち交流館建設のため、通常より営業期間を短縮した。
○　１月～３月　　空白期間であるが、民間の動向に注視し、促進していく。

【食を活かした観光事業の来客・食事提供数】

項　目	平成 29 年度	平成 28 年度
延岡水郷やな	16,308 人	19,719 人
東九州伊勢えび海道	2,660 食	2,309 食
ひむか本サバ海幸御膳	322 食	929 食
岩がきまつり	19,822 食	11,923 食

④　「ふるさと納税」を活かした物産振興

高速道路開通を機に、本市の観光や物産振興を積極的にＰＲしていくツールとしてふるさと納税制度を活用し、３割程度の返礼品率を維持しながら、本市ならではの魅力ある特産品等を提供していく。

【ふるさと納税の現状】

年　度	件　数	金　額
平成 27 年度	2,260 件	6,191 万 9,452 円
平成 28 年度	2,551 件	6,239 万 9,304 円
平成 29 年度見込み	3,561 件	約 6,870 万円

（２）西郷どんを活かした観光誘客

①　「西郷隆盛青空テーマ館 in 延岡」

天孫ニニギノミコトとの時空を超えた「出会い」、軍の解散、陸軍大将の軍服の焼却、可愛岳突破の「決断」、療養中の長男菊次郎との「家族愛と別れ」の３つのドラマについて「西郷隆盛青空テーマ館 in 延岡」として、プロモーション活動を展開し、広く全国に向け情報を発信している。

②　西郷隆盛ゆかりの地環境整備事業

ニニギノミコト御陵墓において、冠木門及び勾玉をイメージした水飲み場の整備、ブロック塀石柱化、玉砂利の敷設、由緒書き看板及び歌碑の設置を行う。

③　西郷隆盛ゆかりの地プロモーション事業

○　和田越等の７ヶ所の看板設置及び大型バスの誘導看板を作成
○　陸軍大将軍服のレプリカ、のぼり、青空テーマ館のポスター、パンフレット、ガイド用の法被を作成

○資料館放送モニターの整備や西郷隆夫氏の講演会を実施

④　西郷隆盛ゆかりの地特別番組補助事業

ＭＲＴが１時間の特別番組を制作し、県内での放送及びＢＳ－ＴＢＳによる全国放送を行うため、その経費の一部を補助する。

⑤　西郷隆盛ゆかりの地「観光周遊ルート」

九州管内の大手バス系旅行会社を対象に、延岡市・佐伯市のグルメコンテンツを組み込んだ募集型企画旅行を募り、観光客の増加を図る事業。また、個人客向けの取り組みとして、鹿児島市のＮＨＫ大河ドラマ館等にリーフレット等を配布している。

【西郷隆盛宿陣跡資料館入館者数】　単位：人

H24	H25	H26	H27	H28	H29（H30.2）
3,074	2,224	3,331	2,880	3,316	11,851

※トリップアドバイザー「西郷どんを知る 10 のスポット」で第２位となる。

【道の駅北川はゆまレジ通過者数】　単位：人

H24	H25	H26	H27	H28	H29（H30.2）
147,360	179,985	307,228	399,014	393,991	384,362

（３）今後の展開

食を活かした観光誘客については、佐伯市との広域的な食による連携事業の展開をはじめ、「美味しいものが食べられるまち」のイメージ定着を図り、誘客の増加による観光消費額を高め、「観光の産業化」を目指していく。

西郷どんを活かした観光誘客については、大河ドラマ終了後も延岡に行きたいというリピーターの確保などに努め、滞在型観光を推進し、観光消費額を高めるように取り組んでいく。

３．他自治体の取り組み状況

≪姫路市（兵庫県）≫

大河ドラマを活用した観光について

（１）姫路市の観光状況

【総入込客数、姫路城の入城者数】

年度	総入込客数	入城者数	備　考
H22	791 万 9 千人	45 万 8 千人	姫路城大天守保存修理（H21.10 月～）
H25	916 万 3 千人	88 万 1 千人	官兵衛プロジェクト開始
H27	1,190 万 2 千人	286 万 7 千人	姫路城グランドオープン（H27.3 月）
H28	1,026 万 6 千人	211 万 2 千人	

（２）外国人観光客の入城者数

訪日客の増加とともに、姫路城グランドオープンによるＰＲ効果に伴い、平成28年度は36万５千人（前年比19.3%増）が入城している。

（３）大河ドラマ放送前の主な取り組み

○　誘致活動開始前

平成９年10月に黒田家にゆかりのある自治体が集まり、「黒田都市サミット」を開催する他、平成18年11月に播磨の黒田節顕彰会の主催による「官兵衛生誕460年記念フォーラム」を開催している。

○　誘致活動中

平成20年度　ＮＨＫ大河ドラマ「黒田官兵衛」を誘致する会を設立
平成21年度　誘致ＰＲキャンペーンを福岡市、中津市、宇佐市で開催
平成22年度　福岡、唐津を巡る１泊２日のバスツアーを実施
平成23年度　大河ドラマ誘致ＰＲキャンペーンを九州で開催
平成24年度　官兵衛のゆかりの地を廻る「黒田官兵衛ツアー」の実施
※この間、ＮＨＫに数回、要望書を提出している。

○　誘致決定後

平成24年度　・　「ひめじ官兵衛プロジェクト庁内本部会議」を発足
・　ひめじ官兵衛プロジェクト設立総会を開催
平成25年度　・　第２回プロジェクト総会を開催し、実施計画を承認
・　バスガイド、タクシードライバー、ホテル・飲食店等従事者を対象にしたおもてなし研修を実施（黒田官兵衛についても説明）
・　第３回プロジェクト総会開催。第２次実施計画を承認

（４）大河ドラマ放送中の主な取り組み

平成26年度

○　第４回プロジェクト総会を開催し、第３次実施計画を承認
○　ロケ風景を紹介するパネル展をＪＲ姫路駅中央地下通路で開催
○　大河ドラマ館入館者10万人ごとに節目イベントを実施し、市長から記念品を贈呈

（５）大河ドラマ放送後（ひめじ官兵衛プロジェクト終了後）の主な取り組み

①　大河ドラマ館の展示物の活用

展示物の一部を姫路城で展示

②　黒田官兵衛を観光資源とした情報発信の継続

○　大河ドラマ舞台地巡りパンフレットの作成
○　まちあるきマップの継続発行
○　既存の観光パンフへの掲載

③　公式キャラクター「かんべえくん」の継続使用　等

（６）観光面における効果について

① 姫路市内の主要観光地入り込み

○ 大河ドラマ館入館者数 611,576 人

○ 官兵衛の歴史館（姫路城）入館者数 890,455 人

○ 合計 1,502,031 人（前年同時期比 18.4%増）

② 経済波及効果額

兵庫県	播磨地域	姫路市
243.4 億円	127.8 億円	120.1 億円

（７）今後の計画や課題等について

① 現在進行中の計画

○ 2020 東京オリンピック・パラリンピック姫路プロジェクト

「世界遺産姫路城を通して世界とつながる」をテーマにスポーツ・文化・観光等の分野を連動させた施策を展開していく。

・スポーツ 事前合宿の誘致など、スポーツを通じた魅力発信

・文化 文化コンベンションセンターの設置

・観光 インバウンド観光、滞在型観光の推進

≪岩国市（山口県）≫

観光の振興について

（１）岩国市の観光状況

年間の観光客は 300 万人である。錦帯橋は 60 万人、周辺の岩国城、シロヘビの館、鵜飼遊覧等を含めると錦帯橋エリアで約 150 万人が周遊している。

（２）岩国市観光交流所「本家松がね」

① 施設の概要

1850 年頃に建築されており、鬢付け油の製造販売を行っていた松金屋の建物である。昭和初期には、國安家が醤油製造販売を行っていた。平成 12 年に国登録有形文化財、平成 29 年に岩国市景観重要建造物に指定されている。

② 目的

登録有形文化財國安家住宅の保存・活用により、観光振興や地域のまちづくりを推進する。

○ 観光客（日本人・外国人旅行客）の休憩の場、観光・物産等の情報発信・収集の場

○ 観光客と市民（地域住民）の交流の場

③ 事業内容

地域のまちづくりを行っている株式会社岩国城下町サロンに事業を委託

○ 観光振興、地域の活性化に係る企画、展示

○ 観光情報、地域情報の提供に関する事業

○　地域の特産品情報の展示
○　市内の特産品や湯茶などの提供
※９つの特産品（地酒、高森牛、岸根ぐり、由宇とまと、岩国寿司、岩国れんこん、わさび、こんにゃく、天然鮎）について、写真パネル、雑誌、大型モニターでの展示や試食・試飲を行っている。

④　特徴
○　インバウンド対応施設
展示文の英訳、英語対応可能なスタッフの常駐及びフリーＷｉ－Ｆｉ環境の整備を行っている。
○　旅のはじまり施設
観光、物産情報を発信し、行ってみたい、食べてみたいという気持ちを喚起させる。
○　地元住民との交流施設

⑤　事業の効果
今まで業者間の連携はなかったが、新たなネットワークが形成された他、試飲・試食を通じてコラボ商品が開発されている。

⑥　今後の計画
全国的にも知られるようなお土産品を開発するとともに、広島東洋カープの２軍キャンプ地や温泉を活用した観光振興に努めていきたい。

４．まとめ

本市には、海・山・川の魅力ある素材を活かした食が点在しており、観光客の誘客に欠かせないものである。現在、「東九州伊勢えび海道」、「ひむか本サバフェア」、「岩がきまつり」等のイベントや滞在型観光の推進について広域連携で実施しているが、本市の食を活かした有効な取り組みの１つであることから、今後も継続していくことが重要である。

また、食の拠点施設として「延岡市かわまち広場」が４月にはオープンする予定であり、本市の豊かな海・山・川の幸を活かした食の提供を行うとともに、指定管理者や料理人部会、生産者部会等の関係者と連携しながら、イベントの開催や情報発信の拠点として有効活用していくことが期待される。

更に、現在、大河ドラマ「西郷どん」放映等の効果により、「西郷隆盛宿陣跡資料館」の入場者が前年と比較して約 3.6 倍になっており、近隣の道の駅北川はゆまにおいては、レジ通過者数と売上額も増加していることから、他の道の駅等とも連携し、更なる地場産品のＰＲを図ることが必要である。

最後に、当局においては、観光誘客に関する各種事業に取り組んでいるが、大河ドラマが終了した後もいかにリピーターを確保していくかが課題と考える。今後は、「出会い」、「決断」、「家族愛と別れ」の３つのドラマは、本市にしかないという強みを活かすとともに、食と絡めた滞在型観光の推進を図り、リピーター増加と観光消費額を高め、観光の産業化を目指していく取り組みが推進されることを期待する。